

令和元年6月17日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03378

研究課題名（和文）大小摺物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合的研究

研究課題名（英文）General study on history of art and cultural history of Dai-sho Surimono (intellectual play that applied a calendar)

研究代表者

岩崎 均史 (IWASAKI, Hitoshi)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・客員研究員

研究者番号：50770765

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,100,000円

研究成果の概要（和文）：東京国立博物館蔵「大小暦類聚」中の大小、一点一点のデータを仔細に項目分けし採取。そのデータに画像を合わせ、東京国立博物館研究情報アーカイブスのデータベースとして一般公開される。検索できる作品数は、「大小暦類聚」全20巻、明和9年（1772）～享和4年（1804）の32年間の3200点ほどに及ぶ。この過去、閲覧申請を経なければ、まとめて見ることのできなかつた国内最大の大小作品群を、研究者のみならず、一般の人たちも閲覧可能となったことは、大きな意味を持つものである。この科研の成果について、国際浮世絵学会等での研究報告、学会誌への論文掲載等も検討・準備中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

単に浮世絵版画のみに関わらず、広範な情報を持つ得難い資料である大小だが、重要と認識されながら、研究されることも少なく、殆ど手つかずの状態で放置されているに等しい。この状況は研究者が、まとまった大小の作品を見る機会を得ることが困難だったことに原因がある。今回の科研の大きな成果は、国内最大の貼込帖である東京国立博物館蔵「大小暦類聚」の大小個々のデータを採取し、画像と合わせ、研究情報アーカイブスのデータベースとして公開されることである。これにより、研究者は勿論のこと、一般の人も自由にウェブサイトを検索閲覧が可能となり、まとめて作品が見られなかつた状況を大きく変化させることになる。

研究成果の概要（英文）：The Daisho koyomi ruiju (Collection of Calendar Pictures) is a collection of multicolor-picture calendars stored at the Tokyo National Museum. Images of this collection have been made available to the public in the database of the Tokyo National Museum Digital Research Archives. The number of images that can be searched is about 3200 items for a total of 20 volumes published from 1772～1804. Not only researchers, but also the general public can now browse the Daisho koyomi ruiju, which is of great significance. We intend to present the results of our project at a conference organized by a research society, such as the International Ukiyo-e Society, and publish the results in their journal: Ukiyo-e Geijutsu (Ukiyo-e Art).

研究分野：日本美術史（近世絵画） 江戸庶民文化史

キーワード：日本・東洋美術 浮世絵 錦絵 摺物 暦 近世文化史

1. 研究開始当初の背景

大小(摺物・暦)及びその交換は、近世の特徴的な風習である。浮世絵版画では、明和2年の交換会の隆盛により、少色の版画から、錦絵と称される木版多色摺が完成することは定説でもある。さらに大小には、絵師研究に関して、作成年が大小当該年を過ぎることがないことから、作画期の基準作となること。彫・摺に関わった人名が記入されていることが多いこと。画題が豊富で、時代を反映したものが多く、更に日本画には少ない「静物画」的なものが多いことその他、重要な風俗資料・歴史史料となり、単に浮世絵版画のみに関わらず、広範な情報を持つ得難い資料と断定できるものである。

だが、明和2年以降、あるいは以前の大小に関して研究されたことはごく少なく、重要なが、殆ど手つかずの状態では放置されているに等しい。この状況は研究者が、まとまった大小の作品を見る機会を得ることが困難だったことに原因がある。

2. 研究の目的

本研究では、国内最大の貼込帖である東京国立博物館蔵「大小暦類聚」の大小個々のデータを採取し、作品名(含仮題付与)・翻刻・関係者情報採取・分類・大小の特定、本研究進行中に生じた新知見、情報も適宜加えた目録をまとめ、この有用性を発信することを目的としたデータベースを研究者及び一般に公開する。これにより、研究に不足していた情報が簡便に提供可能となり、今まで少なかった大小の活用が図られることとなる。このように本研究の成果を持って、大小の有用性と活用を発信することを目的とする。

3. 研究の方法

作業での主要採取データは東京国立博物館蔵「大小暦類聚」中の大小、一点一点の摺・筆の判別(摺(版画)か、筆写も含む肉筆か、混合かを判別。作品名:文字のある場合は、あるがままで採取し翻刻、ない場合は仮題付与。画題特定:明確なもののみとし、推定はメモ程度にとどめた。関係者情報:作者あるいは注文主の特定、絵師(作画)の特定、いずれも落款、記名、印章、を記録。画派などはメモに止めた。印章等判読:採取すべき以外の印章等も可能な範囲で判読。干支情報:干支に関する記述を採取。採寸確認:過去の採寸の錯誤等なきよう確認。採寸は通常縦×横(cm)を記録。大小の探索:大の月・小の月がどのように配されているか確認、含貼込帖表記年代との齟齬の確認などの調査を項目として実施した。

4. 研究成果

現在、「大小暦類聚」のデータ採取は終了し、さらに貼込まれた場所での年代の適合性と大小の形態分類(新規に構築)を加えて、他の本研究進行中に生じた新知見、情報も適宜加え、東京国立博物館研究情報アーカイブスのデータベースとして公開用に整理しつつ確認作業を行なっている。すでに、一部テスト運行段階に至っており、今後も作業を進めつつ、本科研の共同研究者を中心に、内容確認を加えて、より精度を高め一般公開に至る予定で進行中。

また、今回の科研の成果及びデータベースの周知を兼ねて、国際浮世絵学会の研究会で報告をする方向で準備中、実施の後は、その活字化を学会誌「浮世絵芸術」などに掲載することも前提に調整中。また、現在までの段階で研究内容に興味を持つ出版社もあり、研究者を対象とした学会発表・論文発表とは別に成果を広く一般に公開するための一般向け出版が先行することもあり得る。多くの画像を出版物で公開することも大小の理解と普及に大きな意義があり、その実現を検討している。また、他の大小を所蔵する組織から、本科研の成果と連携可能な、当該作品のデータベース化を検討しているという情報もある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

東京国立博物館研究情報アーカイブスのデータベースにて公開に向け準備作業中
現段階で、データベースライセンスを取得し、一部作動確認・テストを実施中

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：岩崎均史

ローマ字氏名：IWASAKI. hitoshi

所属研究機関名：独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館

部局名：

職名：客員研究員

研究者番号（8桁）：50770765

研究分担者氏名：田沢裕賀

ローマ字氏名：TAZAWA. hiroyoshi

所属研究機関名：独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館

部局名：学芸研究部

職名：学芸研究部長

研究者番号（8桁）：80216952

研究分担者氏名：大久保純一

ローマ字氏名：OKUBO, junichi

所属研究機関名：独立行政法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館

部局名：大学共同利用期間等の部局等

職名：教授

研究者番号（8桁）：90176842

研究分担者氏名：小林ふみ子

ローマ字氏名：KOBAYASHI. fumiko

所属研究機関名：法政大学

部局名：文学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：00386335

研究分担者氏名：桑山童奈

ローマ字氏名：KUWAYAMA. dona

所属研究機関名：神奈川県立歴史博物館

部局名：学芸部

職名：主任学芸員

研究者番号（8桁）：70332393

(2)研究協力者

研究協力者氏名：北川博子

ローマ字氏名：KITAGAWA. hiroko

研究者番号（8桁）：30425061

研究協力者氏名：大和あすか

ローマ字氏名：YAMATO. asuka

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。